

株主のみなさまへ

第127期 中間事業報告書

2004年4月1日から2004年9月30日まで



目次

■ 株主のみなさまへ	2
■ 連結業績の概要	3
■ トピックス	5
■ 当社事業のご紹介	7
■ アンケート結果のご報告	8
■ 連結決算	9
連結貸借対照表	
連結損益計算書	
連結キャッシュ・フロー計算書	10
■ 単独決算	11
貸借対照表	
損益計算書	12
■ 会社の概況	13
株式の状況	
会社の概要	14
■ 株主メモ	
ホームページのご案内	裏表紙



【将来見通しに関する記述についての注意】

この中間事業報告書において、当社の現在の計画、見通しなどのうち歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた、当社の経営者の信念および判断に基づいています。したがって、これらの業績見通しのみで全面的に依拠することは控えてくださいますよう、お願いします。実際の業績は、さまざまなリスクや不確実性により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる不確実性には、当社の事業を取り巻く経済情勢、さまざまな競争、圧力、関連法律・法規、為替レートの変動などです。ただし、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。

株主のみなさまには、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

日ごろより、株式会社豊田自動織機および豊田自動織機グループ各社をご支援いただきまして、まことにありがとうございます。

第127期中間事業報告書をお届けするにあたり、ごあいさつ申し上げます。

当中間期の連結業績につきましては、フォークリフトの台数増加などにより、売上高・経常利益とも過去最高となり、5期連続の増収増益を実現することができました。また、2002年度からスタートしました中期売上目標(2005年度連結売上高 1兆2,000億円)につきましても、グループの総力をあげて推進してまいりました結果、1年前倒しの2004年度に達成できる見込みとなりました。

当期の中間配当金につきましては、さる10月28日開催の取締役会におきまして、前期に比べ1円増配の、1株につき13円とし、支払開始日を11月26日とさせていただきますので、よろしくご了承を賜りたいと存じます。これにより、中間配当金は4期連続の増配となります。

今後も、品質第一に徹して、お客さまのニーズを先取りした魅力ある新商品の開発に取り組むとともに、販売・サービス活動や原価改善活動を総力をあげて展開し、いっそうの成長・発展と利益の確保につとめてまいります。それにより、企業価値のさらなる向上をはかり、株主のみなさまをはじめ、当社を取り巻く関係者の方々のご期待におこたえすることで、企業の社会的責任を誠実に果たしてまいりたいと存じます。引き続き変わらぬご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2004年11月



取締役会長 **横井 明** 取締役社長 **石川忠司**

連結業績の概要

営業の概況

当中間期においては、米国経済は拡大が続き、欧州経済もゆるやかに回復するなど、海外景気には回復の動きが広まってきました。また、日本でも、輸出の拡大などに伴い民間設備投資が増加し、個人消費もゆるやかに増加するなど、景気は堅調に回復してきました。

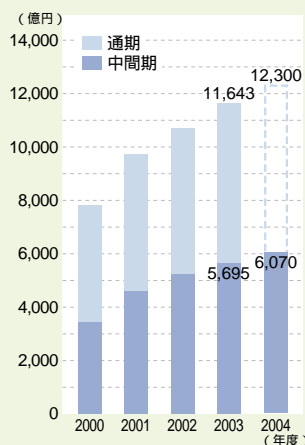
このような状況のなかで、当中間期の売上高については、積極的な拡販活動などにより、前年同期を375億円(7%)上回る6,070億円となりました。

利益については、売上の増加に加え、生産性の向上やグループあげての原価改善活動の効果、また、ソニー(株)との合弁会社エスティ・エルシーディ(株)の寄与もあり、経常利益は前年同期を87億円(29%)上回る

388億円、中間純利益は前年同期を69億円(40%)上回る239億円となりました。1株当たり中間純利益については、前年同期を17円19銭上回る75円31銭となりました。

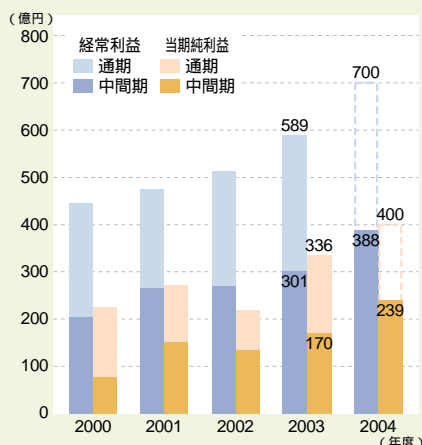
なお、通期の業績については、1米ドル109円を前提に、売上高は前期を657億円(6%)上回る1兆2,300億円、経常利益は前期を111億円(19%)上回る700億円を見込んでいます。当期純利益は前期を64億円(19%)上回る400億円、1株当たり当期純利益は前期を17円66銭上回る125円70銭を予想しています。

売上高

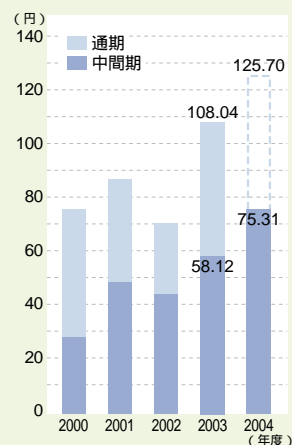


(注)2004年度通期については予想値です。

経常利益・当期純利益



1株当たり当期純利益



セグメント情報

【自動車】 車両については、北米向けカローラは減少しましたが、欧州向けRAV4の受注が好調で、売上高は前年同期を39億円(3%)上回る1,393億円となりました。

エンジンについては、ランドクルーザーに搭載されるUZ・FZ型ガソリンエンジンは減少しましたが、欧州向けのRAV4やアベンシスなどに搭載されるCD型ディーゼルエンジンが増加し、売上高は前年同期を43億円(8%)上回る565億円となりました。

カーエアコン用コンプレッサーは、欧州向けはほぼ横ばいでしたが、北米向けが増加し、売上高は前年同期を若干上回る1,012億円となりました。

これらの結果、自動車部門の売上高は前年同期を125億円(4%)上回る3,086億円となり、営業利益は前年同期を4億円(3%)上回る151億円となりました。

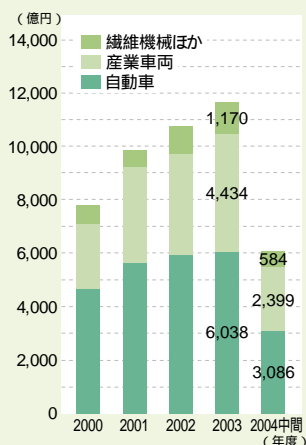
【産業車両】 トヨタブランドについては、国内大口顧客への拡販活動を引き続き推進し、海外でも各種販売施策に取り組み、前年同期を18%上回る47千台を販売しました。

BTブランドでは、BTインダストリーズグループの積極的な販売活動と北米・欧州市場の好調により、前年同期を6%上回る33千台を販売しました。

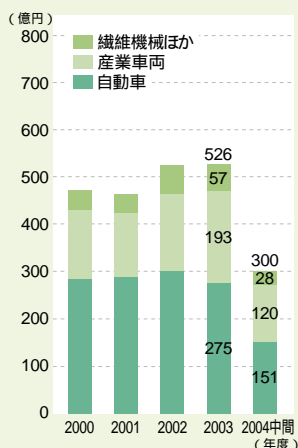
これらの結果、売上高は前年同期を236億円(11%)上回る2,399億円となり、営業利益は前年同期を32億円(36%)上回る120億円となりました。

【繊維機械】 中国政府の景気引き締め政策により、エアジェット織機の受注が減少し、売上高は前年同期を16億円(7%)下回る222億円となりました。

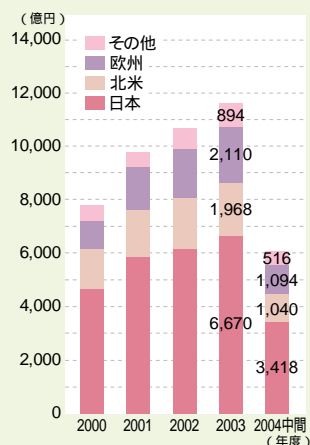
事業別売上高



事業別営業利益



市場別売上高



北米で二つ目の コンプレッサー生産会社を設立

7月、米国ジョージア州に、MACI*1につづく北米で二つ目のカーエアコン用コンプレッサー生産拠点となる新会社「ティーディー・オートモティブ・コンプレッサー・ジョージアLLC (TACG)」を(株)デンソーとの合併で設立しました。環境意識の高まりから今後は北米でも伸びると予測される、省燃費にすぐれた可変容量タイプの専用工場です。2005年12月に操業を開始、2010年までに年間200万台の生産を計画し、



TACG完成予想図

北米市場でのさらなる事業拡大をめざします。

*1 MACI: ミシガン・オートモティブ・コンプレッサー(株)

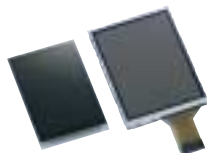
国際物流総合展2004に出展

9月に東京ビッグサイトで開催された、アジア最大級のロジスティクス・物流機器の展示会「国際物流総合展2004」に出展しました。今回は、トヨタ生産物流方式の考え方に基づいて物流センター内での人・モノ・情報などを総合的に管理し、物流の効率化を実現する新商品「ウェアハウスマネジメントシステム(WMS)」などを紹介。高効率で高品質かつ低コストな次世代の倉庫内物流が生み出す大きな「喜び」を、お客さまにアピールしました。



ST-LCD、液晶ディスプレイパネル 出荷累計1億枚を突破

ソニー(株)との液晶合併会社「エスティ・エルシーディ(株)(ST-LCD)」は、1999年4月に低温ポリシリコンTFT液晶ディスプレイの量産を開始しま

低温ポリシリコン
TFT液晶ディスプレイ

した。以来、主にビデオカメラやデジタルスチルカメラ、携帯電話向けの中小型サイズのパネルを生産し、この10月、累計出荷数1億枚を達成。2005年4月からは、携帯電話向けの需要拡大などに対応するため、設備能力を月産4万枚(600×720mm基板ベース)に増強します。なお、6月には、「第9回アドバンスト・ディスプレイ・オブ・ザ・イヤー」で、「低温ポリシリコンTFT-LCD ACX522」が優秀賞を受賞(第7回について2回目)しました。

中国における自動車関連事業を拡大

中国において自動車用鋳造部品の生産能力を増強するため、4月、江蘇省昆山市に「豊田工業汽车配件(昆山)有限公司(TIAP)」を設立しました。TIK*2につづく、台湾の六和機械股份有限公司および豊田通商(株)との合併による中国で二つ目の鋳造部品生産拠点として、2005年4月に生産を開始する予定です。また、同じ昆山市に設立された、六和機械との自動車用プレス金型生産の合併会社「六豊模具(昆山)有限公司(LFT)」(当社35%出資)も、4月に操業を開始しています。



*2 TIK: 豊田工業(昆山)有限公司

LFT立ち上がり時の役員視察

大型フォークリフトをフルモデルチェンジ

8月、エンジン式大型フォークリフト全14機種(10~24トン)をフルモデルチェンジし、国内および海外12カ国で発売しました。クラス世界初の「コモンレール式電子燃料噴射システム」を採用した新型ディーゼルトーボエンジン搭載により、業界トップレベルの高出力と低燃費を実現するとともに、排出ガスをクリーン化。パワーと経済性の両立、環境への配慮、使う人へのやさしさなど、求められるすべての要素を高い次元で実現しています。



エンジン式大型フォークリフト 4FD120

インドにおいて自動車部品事業を拡大

中国などととも「BRICs」として注目を集めているインドにおいて、キルロスカグループとの繊維機械生産の合弁会社「キルロスカ トヨタ テキスタイル マシナリー(株)(KTTM)」にトランスミッション部品工場を新設し、5月から生産を開始しました。また、KTTMの生産部品の納入先である、トヨタ自動車(株)およびキルロスカグループとのトランスミッション生産の合弁会社「トヨタ キルロスカ オートパーツ(株)(TKAP)」(当社26%出資)も、6月から稼働しています。



KTTM新工場の開所式(8月)

人とくるまのテクノロジー展2004に出展

5月にパシフィコ横浜にて開催された、自動車技術展「人とくるまのテクノロジー展2004」に出展しました。今回は、ハイブリッド車用のDC-DCコンバータ、1.5kW DC-ACインバータ、燃料電池車用のエアコンプレッサー、水素循環ポンプや、自然冷媒コンプレッサーなどを展示。次世代の環境に配慮した製品には、自動車関係の技術者をはじめ、多くの方々から高い関心が寄せられ、当社の技術力を認知していただきました。



「社会環境報告書2004」を発行

2003年度の環境への取り組みをまとめた「社会環境報告書2004」を8月に発行しました。1999年の発行開始から6号目となる今回は、大府工場の環境配慮型工場へのリニューアル、世界初の量産電動コンプレッサーES18の開発などの環境活動を幅広く紹介。また、企業の社会的責任に関する説明責任を果たすという観点から、コンプライアンス、品質保証体制、従業員とのかかわりといった社会的側面の記述を充実させています。



当社事業のご紹介

[創業の事業]

繊維機械

トヨタグループの原点は、社祖・豊田佐吉による自動織機の発明です。それから始まった創業の事業である繊維機械事業では、繊維の束に撚(よ)りをかけて糸を紡(つむ)ぐ紡機と、紡いだ糸を経緯(たてよこ)に組み合わせる布を織る織機の、大きく分けて2種類の製品の開発・生産・販売からアフターサービスまでを一貫して行っています。



JAT710 エアジェット織機



LW600シリーズ
ウォータージェット織機

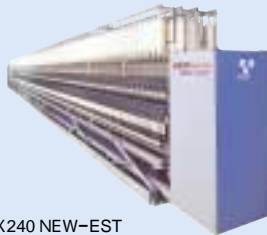
【紡機】 当社は、高品質な糸の紡出性能の追求と同時に省エネルギーにも配慮した、高速リング精紡機・粗紡機・練条機などの多彩なラインナップにより、お客さまの幅広いニーズにこたえており、紡機においても、業界のリーディングカンパニーとして、世界中のお客さまから高く評価されています。

近年では、ますます高度化する世界中のお客さまのニーズにこたえるため、高速性・信頼性という基本性能にすぐれた最新鋭機に、制御技術・通信技術・エレクトロニクス技術などを積極的に採り入れています。

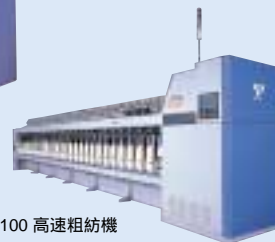


「第1回イスタンブール繊維機械展 (トルコ) に出展 (6月)」

【織機】 当社の織機には、よこ糸を空気力で運ぶエアジェット織機と、水の力で運ぶウォータージェット織機の2種類があり、主力のエアジェット織機は世界シェアNo.1を誇っています。さらに、高品質なサイジング(たて糸ののり付け)を実現するサイザーなど、製織準備機も取り揃えています。



RX240 NEW-EST
コンパクトヤーンリング精紡機

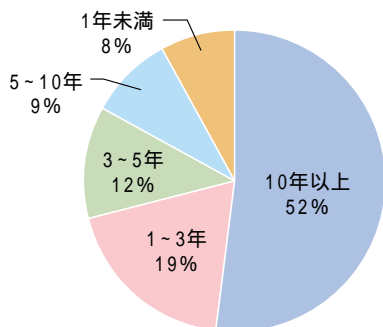


FL100 高速粗紡機

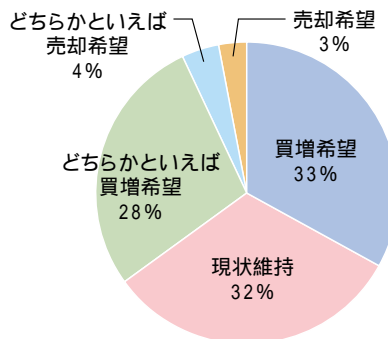
アンケート結果のご報告

2003年度の事業報告書に同封しましたはがきにて、株主のみなさまにアンケートをお願いしましたところ、1,000通ものご回答をいただきました。まことにありがとうございました。お寄せいただきました貴重なご意見・ご要望を参考に、事業報告書をはじめ、当社のIR活動をいっそう充実させていきます。

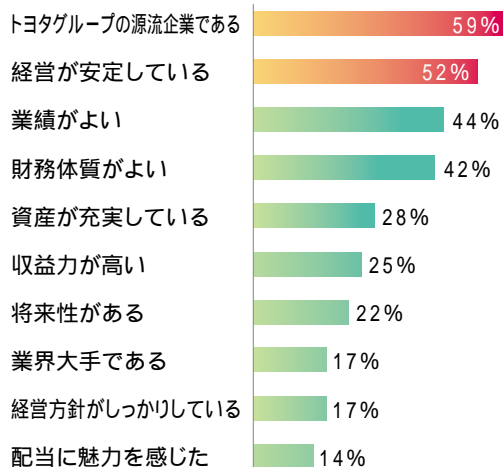
当社株式ご保有の期間



当社株式の買増・売却に関する現在のお考え

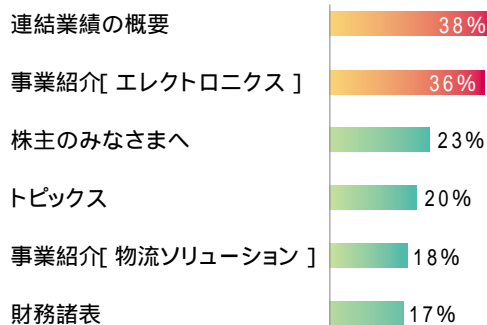


当社株式ご購入の理由(複数回答可)



(上位10項目を抜粋表示)

事業報告書で興味をお持ちの内容(複数回答可)



みなさまと当社のかけ橋としての事業報告書について、たくさんのご期待・ご要望をいただいています。今後もいっそうの充実をはかり、もっと「読みやすく、わかりやすく、親しみやすい」冊子をめざします。

連結決算

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当中間期 (2004年9月30日現在)	前期 (2004年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	369,099	349,914
現金預金	56,945	57,375
受取手形および売掛金	150,569	144,575
有価証券	20,021	20,064
たな卸資産	86,524	77,574
その他	55,037	50,324
固定資産	1,804,230	1,662,080
有形固定資産	409,970	389,396
建物および構築物	129,127	124,422
機械装置および運搬具	170,712	160,787
その他	110,131	104,186
無形固定資産	95,924	99,856
投資その他の資産	1,298,334	1,172,828
投資有価証券	1,233,265	1,112,776
その他	65,068	60,051
合計	2,173,329	2,011,995

科目	当中間期 (2004年9月30日現在)	前期 (2004年3月31日現在)
負債の部		
流動負債	365,948	326,337
支払手形および買掛金	134,552	129,821
短期借入金	75,671	70,441
コマーシャル・ペーパー	15,000	15,000
1年以内償還の社債	20,000	
その他	120,723	111,073
固定負債	670,944	633,968
社債	180,300	200,300
長期借入金	41,389	35,224
繰延税金負債	388,322	346,335
退職給付引当金	42,486	34,264
その他	18,447	17,843
負債計	1,036,893	960,305
少数株主持分	38,220	34,926
資本の部		
資本金	80,462	80,462
資本剰余金	105,621	105,743
利益剰余金	310,054	294,672
其他有価証券評価差額金	598,868	534,078
為替換算調整勘定	19,967	19,782
自己株式	16,759	17,975
資本計	1,098,215	1,016,763
合計	2,173,329	2,011,995

(注)当中間期の連結子会社数は142社、持分法適用会社数は20社となっています。

■ 連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当中間期	前年中間期
	2004年4月1日から 2004年9月30日まで	2003年4月1日から 2003年9月30日まで
売上高	607,063	569,587
売上原価	505,902	478,575
販売費および一般管理費	71,062	63,993
営業利益	30,098	27,018
営業外収益	18,932	16,044
受取利息および配当金	10,995	9,777
その他	7,936	6,267
営業外費用	10,141	12,895
支払利息	4,589	4,969
その他	5,551	7,925
経常利益	38,890	30,168
特別利益	—	621
確定拠出年金移行差益		621
特別損失	414	1,851
減損損失	414	
内規変更に伴う過年度 役員退職慰労引当金繰入額		1,851
税金等調整前中間純利益	38,476	28,938
法人税、住民税および事業税	15,483	8,503
法人税等調整額	3,232	1,652
少数株主利益	2,280	1,686
中間純利益	23,945	17,095

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当中間期	前年中間期
	2004年4月1日から 2004年9月30日まで	2003年4月1日から 2003年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー*1	45,198	32,343
税金等調整前中間純利益	38,476	28,938
減価償却費	32,707	30,562
売上債権の増減額	5,295	3,988
たな卸資産の増減額	8,527	1,258
仕入債務の増減額	3,704	4,359
法人税等の支払額	9,859	17,227
その他	6,006	2,840
投資活動によるキャッシュ・フロー*2	54,965	36,418
有形固定資産の取得による支出	45,870	29,752
投資有価証券の取得による支出	9,029	10,074
その他	65	3,408
財務活動によるキャッシュ・フロー*3	9,422	56,780
短期借入金の純増減額	5,739	9,658
コマーシャル・ペーパーの純増減額		30,000
長期借入金の純増減額	5,632	4,391
社債の償還による支出		31,677
転換社債償還基金への支出		56,670
配当金の支払額	3,813	3,510
その他	1,862	190
現金および現金同等物に係る換算差額	39	576
現金および現金同等物の増減額	384	60,279
現金および現金同等物の期首残高	77,212	136,929
連結子会社決算期変更に伴う 現金および現金同等物の減少額	—	3,763
現金および現金同等物の期末残高	76,827	72,886

*1 営業活動によるキャッシュ・フローとは営業活動で生じる現金収支を表します。

*2 投資活動によるキャッシュ・フローとは設備投資や出資といった投資活動で生じる現金収支を表します。

*3 財務活動によるキャッシュ・フローとは資金の調達・返済、配当金の支払いといった財務活動で生じる現金収支を表します。

単独決算

貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当中間期 (2004年9月30日現在)	前期 (2004年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	195,311	187,189
現金預金	26,927	29,330
受取手形および売掛金	84,041	77,066
有価証券	20,003	20,002
たな卸資産	26,418	25,139
その他	37,920	35,651
固定資産	1,675,564	1,548,133
有形固定資産	241,383	234,059
建物および構築物	82,782	80,345
機械装置および運搬具	94,561	94,075
その他	64,039	59,637
無形固定資産	9,799	9,443
投資その他の資産	1,424,381	1,304,630
投資有価証券	1,237,571	1,121,117
子会社株式・出資金	154,934	153,309
その他	31,875	30,203
合計	1,870,875	1,735,323

科目	当中間期 (2004年9月30日現在)	前期 (2004年3月31日現在)
負債の部		
流動負債	201,315	170,114
支払手形および買掛金	92,271	89,635
コマーシャル・ペーパー	15,000	15,000
1年以内償還の社債	20,000	
その他	74,043	65,479
固定負債	611,142	584,674
社債	180,000	200,000
長期借入金	25,000	20,000
繰延税金負債	383,639	341,727
退職給付引当金	20,153	19,427
その他	2,350	3,519
負債計	812,457	754,789
資本の部		
資本金	80,462	80,462
資本剰余金	105,585	105,707
利益剰余金	290,860	278,962
其他有価証券評価差額金	598,268	533,377
自己株式	16,759	17,975
資本計	1,058,418	980,533
合計	1,870,875	1,735,323

損益計算書

(単位:百万円)

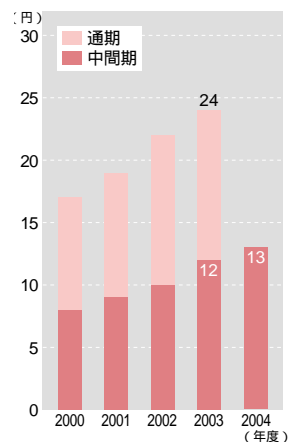
科目	当中間期	前年中間期
	2004年4月1日から 2004年9月30日まで	2003年4月1日から 2003年9月30日まで
売上高	386,317	365,908
売上原価	338,567	321,295
販売費および一般管理費	28,801	26,828
営業利益	18,948	17,783
営業外収益	10,166	8,623
受取利息および配当金	7,915	6,116
その他	2,251	2,506
営業外費用	5,306	6,593
支払利息	1,732	1,843
その他	3,574	4,749
経常利益	23,808	19,813
特別利益	—	621
確定拠出年金移行差益		621
特別損失	—	1,851
内規変更に伴う過年度 役員退職慰労引当金繰入額		1,851
税引前中間純利益	23,808	18,583
法人税、住民税および事業税	9,940	3,979
法人税等調整額	2,088	2,228
中間純利益	15,956	12,376
前期繰越利益	77,055	64,043
中間未処分利益	93,011	76,419

【中間配当について】

2004年10月28日開催の取締役会において、2004年9月30日最終の株主名簿および実質株主名簿に記載または記録された、株主または登録質権者に対して行う中間配当につき、次のとおり決議しました。

1. 中間配当金 1株につき13円
2. 支払請求権の効力発生日および支払開始日 2004年11月26日

1株当たり配当金



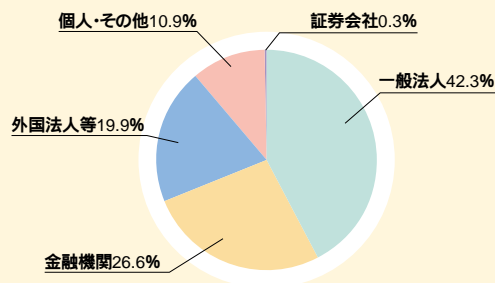
会社の概況

株式の状況

(2004年9月30日現在)

発行する株式の総数 1,091,245,000株
 発行済株式総数 325,840,640株
 株主数 17,092名

所有者別株式分布状況



大株主(上位10名)

株主名	株式数 (千株)	議決権 比率(%)
トヨタ自動車株)	76,600	24.10
(株)デンソー	29,647	9.33
日本マスタートラスト信託銀行(株)	24,899	7.83
カストディアルトラストカンパニー	10,341	3.25
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)	9,662	3.04
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	9,496	2.99
東和不動産(株)	7,697	2.42
日本生命保険(相)	6,637	2.09
アイシン精機(株)	6,578	2.07
豊田通商(株)	6,289	1.98

(注) 当社は、自己株式(7,620千株)を所有していますが上記の大株主からは除いています。

株価の推移



会社の概要

(2004年9月30日現在)

創立	1926年11月18日
資本金	804億円
正従業員数	連結28,400名、単独10,647名
本社所在地	〒448-8671 愛知県刈谷市豊田町2丁目1番地 TEL (0566) 22-2511 (代表)
工場・事務所 (生産品目)	刈谷工場 (繊維機械、カーエアコン用コンプレッサー) 大府工場 (カーエアコン用コンプレッサー部品、ダイカスト品) 共和工場 (電子機器、自動車用プレス型) 長草工場 (車両) 高浜工場 (産業車両、物流システム機器) 碧南工場 (自動車用・産業車両用エンジン) 東知多工場 (鋳造品) 東浦工場 (カーエアコン用コンプレッサー部品) 東京支社 大阪事務所
海外生産拠点 (生産品目)	アメリカ4拠点 (産業車両、 カーエアコン用コンプレッサーおよび マグネットクラッチ) フランス (産業車両、中国 (産業車両、鋳造品) インド (繊維機械、自動車部品) ドイツ (カーエアコン用コンプレッサー) スウェーデン2拠点 (産業車両)、イタリア (産業車両) カナダ2拠点 (産業車両)

役員

取締役会長	横井 明
取締役社長	石川忠司
取締役副社長	中山尚三 野口紘一郎 豊田鐵郎 佐藤則夫
専務取締役	遠藤司郎 竹内和彦 小西正純 上村伸治郎 松浦達郎 片山 巖
常務取締役	吉田成毅 加藤正文 豊田康晴
取締役名誉会長	豊田芳年
取締役	豊田達郎 三矢金平 河野博哉 吉田和憲 竹中健二 山田耕作 加勢田聡 下 昇治 室殿 豊 井上亮二 辻 博文 山北幸男 小川隆希 佐々木一衛
常勤監査役	御友重孝 伊藤正宣
監査役	池淵浩介 白水宏典 古川晶章

株式に関するお手続きについて

- 名義変更、住所変更、単元未満株式の買い取りなど、株式に関する事務はUFJ信託銀行(株)でお取り扱いしていますので、裏面に記載の連絡先までお問い合わせください。
- 銀行・郵便局の口座振込による配当金のお受け取りをご希望の場合は、「配当金振込指定書」に必要事項をご記入・押印のうえ、UFJ信託銀行(株)証券代行部にご提出ください。

- 株券等保管振替制度ご利用の方は、お取引口座のある証券会社にご照会ください。

各種お手続き用紙は、以下の方法でもご請求いただけます。

フリーダイヤル ☎0120-24-4479

インターネット <http://www.ufjtrustbank.co.jp/>

「株式に関するお手続き」の「お手続き用紙のご請求」をご参照ください。

株主メモ

決算期 3月31日

定時株主総会 6月

利益配当金支払株主確定日 3月31日

中間配当金支払株主確定日 9月30日

株式名義書換

名義書換代理人 UFJ信託銀行(株)

同事務取扱所 〒137-8081
東京都江東区東砂7丁目10番11号
UFJ信託銀行(株)証券代行部
TEL(03)5683-5111(代表)

同取次所 UFJ信託銀行(株)全国各支店
野村證券(株)本店・全国各支店

公告掲載新聞 日本経済新聞・中日新聞
(ただし、決算公告に代えて、貸借対照表・損益
計算書を下記ホームページに掲載しています。)

上場証券取引所 東京・名古屋・大阪の各証券取引所

ホームページのご案内



<http://www.toyota-shokki.co.jp/>

世界中で、あなたのそばで。

—世界のヒトとヒトとの想いをつなぐモノづくり—

コーヒー、ワイン、果物、切り花 …
わたしたちの身の回りには、遠く海外から
運ばれてくるものがたくさんあります。

豊田自動織機は、物流機器や自動車用
デバイスをはじめとするさまざまな製品や
技術で、モノやヒトの移動をサポート。

つくったヒトの想いが使うヒトの喜びになる
よう、より効率的、迅速、安全に、さらに
環境にやさしいトランスポーターションを
実現するためのモノづくりを進めています。



(表紙および上記の文章は、当社が「第38回東京モーターショー2004」
出展時に配布したリーフレットを元としています。)



株式会社 豊田自動織機

愛知県刈谷市豊田町2丁目1番地 〒448-8671
TEL(0566)22-2511(代表) FAX(0566)27-5650



この印刷物は、環境保護
のため再生紙を使用し
ています。



この用紙の印刷には環境
に配慮した植物性大豆油
インクを使用しています。